

灯

ともしび



この夏思いがけず二つのおいしいものに出合う機会に恵まれた。一つは豆田会という小さな会のミニ旅行で会員の娘婿がオーナーシェフをしている博多の中洲にある料亭での体験。高級店なのでめったに行けるところではないが和食のコースを食べることに。和食といってもさまざまアレンジが施してあり、特に佐賀牛

都会の味・田舎の味



草野 義輔

生たちが毎月同期の会を行っている。8月は本年初の参加。同級生というのは誠にありがたいもので何でも気兼ねなく、また女性もいるが同じ年齢なので年の話も遠慮はいらない。楽しい時間を過ごさせてもらったが、野上は間違いなく田舎である。農業をしている同級生も多く、

その日は自家製のトマトやトウモロコシなど、まさに採れたて新鮮な自信作が食卓に並んでいる。何とも新鮮でその甘さに感動さえ覚えた。お土産にと高原キャ

ベツもうれしかった。

にトリュフを絡ませたものは大変おいしかった。昼食もホテルのバイキングで結構食べていたので食べ切れるかが心配だったが、そのおいしさと絶妙の量で満足感満点の完食と相なった。

中洲の料亭はミシユラン一つ星でまさに技巧の味、田舎の野菜はそれこそ素材の味だろう。両方を体験でき猛暑を吹き飛ばす夏の良い思い出となった。

他方、私は中学2年生まで九重町野上で過ごしたがその同級

(昭和学園高校理事長・日田市)